

◆編集後記

POP コンテストへの多数の応募を通して、たくさんの面白い本を知ることができました。皆様にも、受賞作品だけではなく様々なジャンルの本を手にとっていただきたいです。(Tsushima)

弘大図書館では、毎年いろいろなイベントを行っています。POP コンテスト、古本市、対談イベント…今年参加できなかった方も、来年はぜひご参加いただければと思います。(Maruyama)

今号では、いくつかの記事の編集を担当しました。先日、回覧された出版物目次で有名版画家の姓名が誤植されていました。編集にあたっては何回も校正をしますが間違いが見つかります。今号も誤植が無いように。(Sasaki)

弘前大学附属図書館報「豊泉」 第58号

発行日：令和5年11月30日

発行：弘前大学附属図書館

編集：弘前大学附属図書館広報委員会
〒036-8560

青森県弘前市文京町1

TEL 0172-39-3163

FAX 0172-39-3171



◆◆◆◆◆図書館員ちょこっとコラム◆◆◆◆◆

弘前市周辺は数多くの日帰り温泉が点在しています。

周辺の温泉に行ってみてはいかがでしょう？私が利用している温泉をいくつかご紹介します。

まずは、弘前市原ヶ平の「せせらぎ温泉」です。泉質はナトリウム-塩化物硫酸塩泉で色は黄赤の温泉で外には広い露天風呂があり、38度ぐらいなのでいくらでも長くいられます。内湯には立派なサウナもあり、テレビを見ながら入り、その後屋外の椅子に座り大パノラマの空を見ながら体を冷やすのはとても気持ちが良い、疲れもストレスも吹っ飛ばすようです。

弘前市愛宕にある「あたご温泉」は、熱めの浴槽と20度ぐらいの低温の浴槽があり、琥珀色でかすかに油臭がするモール温泉です。モール温泉とは植物が長い年月をかけて蓄積していき、地層の一種である亜炭層を通して湧き出ている温泉です。かつてアイヌの人たちからは「薬の沼」と言われていたそうです。熱めの風呂と低温風呂に交互に入るととても気持ちが良いです。

岩木山麓に鎮座します嶽温泉は、乳白色で硫黄臭が強く、藩政時代からの源泉として知られている温泉郷で、見晴らしのよい山麓に位置するこの湯の里は、岩木山観光の拠点としても賑わいを見せます。近くの高原は石坂洋次郎の小説「草を刈る娘」の舞台として有名です。春はわらび・タラの芽、秋はきのこ・とうもろこし（嶽きみ）等を販売している店があり、季節折々の岩木山からの贈り物を頂くことができます。

最後は平川市碓ヶ関にある古遠部（ふるとうべ）温泉です。山の中にあり、中は狭いですがトド寝と言われる浴槽の近くに仰向けになって、毎分500リットルの湯量を背中に感じながら入る「寝湯」が、全国的にも有名な温泉です。泉質がとても健康に良く「医者いらすの温泉」とも言われています。

この他にも、いろいろな温泉がありますので、ご自分で探索してみるのも楽しいと思います。

(いしおか かつひこ)

論文投稿時の掲載料(APC)支援 2024.1~

弘前大学では2024年1月より、Wiley社及びOxford社との契約において、電子ジャーナル購読料とAPCを包括した転換契約(Read&Publish契約)を導入します。

これによるオープンアクセス出版支援の詳細については、下記の学内限定ページをご覧ください。

◆Wiley社 https://ul.hirosaki-u.ac.jp/support/teacher/rp_wiley/ (※学内限定)

◆Oxford社 https://ul.hirosaki-u.ac.jp/support/teacher/rp_oxford/ (※学内限定)